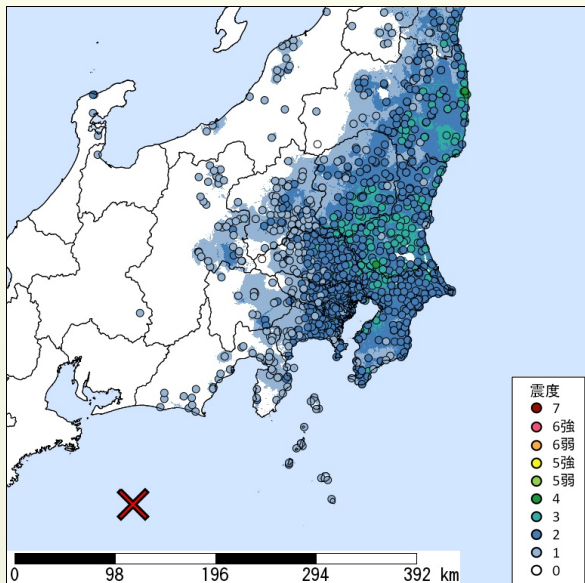


M 6.1, 震源地:三重県南東沖, 深さ約350km, 2022/11/14 17:09頃発生 (気象庁発表)

震度の分布 最大観測震度4(*) 主要都市の推定震度 (都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載)



最大(*) 観測震度	推定震度頻度分布 1 2 3 4 5+6-6+ 7	市区町村名	全人口: 昼間 (人)	震央距離 (km)
4	[Bar chart]	福島県双葉郡双葉町	6,800	515
3	[Bar chart]	東京都千代田区	1,200,000	294
3	[Bar chart]	神奈川県横浜市旭区	180,000	263
3	[Bar chart]	千葉県市原市	240,000	304
3	[Bar chart]	栃木県宇都宮市	510,000	375
3	[Bar chart]	福島県いわき市	320,000	474
3	[Bar chart]	茨城県日立市	210,000	422
3	[Bar chart]	茨城県筑西市	110,000	358
3	[Bar chart]	茨城県水戸市	310,000	393
3	[Bar chart]	神奈川県横浜市神奈川区	240,000	269
3	[Bar chart]	埼玉県春日部市	180,000	317
3	[Bar chart]	千葉県野田市	140,000	323
3	[Bar chart]	千葉県木更津市	120,000	282
3	[Bar chart]	東京都江戸川区	470,000	302
3	[Bar chart]	東京都北区	300,000	297
3	[Bar chart]	神奈川県横浜市中区	260,000	268
3	[Bar chart]	千葉県柏市	330,000	322
3	[Bar chart]	東京都中野区	250,000	289
3	[Bar chart]	神奈川県横浜市戸塚区	220,000	257
3	[Bar chart]	茨城県つくば市	220,000	341

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成22年国勢調査、平成21年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



震度5弱以上の震度遭遇人口の推定値が無い場合、震度遭遇人口は表示されません。

補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成22年国勢調査、平成21年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生日	地震名	M	被害
1686	遠江・三河	7.0	遠江で新居の関所など少々被害、死者があった。三河で田原城の矢倉など破損、死者があった。
1707	五畿・七道(宝永地震)	8.6	わが国最大級の地震の一つ。全体で少なくとも死2万、潰家6万、流出家2万。震害は東海道・伊勢湾・紀伊半島で最もひどく、津波が紀伊半島から九州までの太平洋沿岸や瀬戸内海を襲った。津波の被害は土佐が最大。至戸・串本・御前崎で1~2m隆起し、高知市の東部の地約20km ² が最大2m沈下した。遠州灘沖および紀伊半島沖で二つの巨大地震が同時に起こったとも考えられる。
1854	東海・東山・南海諸道(安政東海地震)	8.4	被害は関東から近畿に及び、特に沼津から伊勢湾にかけての海岸がひどかった。津波が房総から土佐までの沿岸を襲い、被害をさらに大きくした。この地震による居宅の潰・焼失は約3万軒、死者は2千~3千人と推定される。沿岸では著しい地殻変動が認められた。地殻変動や津波の発生から、震源域が駿河湾から入り込んでいた可能性が指摘されており、すでに100年以上経過していることから、次の東海地震の発生が心配されている。
1855	遠州灘	7.0	前年の東海地震の最大余震。掛塚・下前野・袋井・掛川辺がひどく、ほとんど全滅~7.5。死者があった。津波があった。
1944	紀伊半島沖(東南海地震)	7.9	静岡・愛知・三重などで合わせて死・不明1223、住家全壊17599、半壊36520、流失3129。速く長野県諏訪盆地での住家全壊12などを含む。津波が各地に襲来し、波高は熊野灘沿岸で6~8m、遠州灘沿岸で1~2m、紀伊半島東岸で30~40cm地盤が沈下した。
1945	三河湾(三河地震)	6.8	規模の割に被害が大きく、死2306、住家全壊7221、半壊16555、非住家全壊9187。特に橋豆郡の被害が大きかった。深溝断層(延長9km、上下ずれ最大2mの逆断層)を生じた。津波は満潮で1mなど。

出典：国立天文台編「理科年表 平成29年」、丸善出版(2016)、一部表現を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2020年版地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布 再現期間50000年相当の計測震度分布

